

テロ対策どころか一般人の日常生活が監視対象に 「共謀罪法案を許すな」と市民連合と野党が緊急共同街頭宣伝



「共謀罪」法案を何としても廃案に――13日、市民連合・上越が呼びかけた市民と野党の緊急共同街頭宣伝が行われました。会場となった「かに池交差点」付近には100人近い市民が駆け付け、熱気あふれる演説会となりました。

演説会では、市民連合・上越代表の馬場秀幸弁護士が進行役を務め、民進党新潟6区総支部の栗田英明市議、新社会党の牧田正樹市議、日本共産党上越地区委員長の

上野公悦市議（衆院新潟6区予定候補）、自由党森ゆうこ参院議員秘書の土田竜吾氏、戦争法反対レッドアクション事務局の渡辺寿子氏が次々とマイクを握り、訴えました。

その中で民進党の栗田市議などが、「今回の法案は国民を監視するもの。これを許すと戦前の暗黒政治に逆戻りする。絶対許してはならない」と訴えました。馬場弁護士も、「いまの法案はテロ対策

と云っているがとんでもない。新しい法律をつくる必要はなく、いまの法律で十分対応できる。この法案が通ったら、みなさんの日常生活が捜査の対象になる、一般人も捜査対象になる、恐ろしい監視社会になる」とのべました。

市議会災害対策特別委員会は12日、新潟県放射線監視センター、オフサイトセンター、柏崎刈羽原子力発電所を視察してきました。このうち、オフサイトセンター（柏崎刈羽原子力規制事務所）では担当の専門官から同センターの概要説明を受けたあと、施設内を見学しました。

オフサイトセンターは見直しが必要

同センターは柏崎刈羽原子力発電所が緊急事態が発生したとき、その対策の拠点施設です。専門官によると、緊急時、最大で150人からのスタッフが集まるとのことです。ところが、仮眠室は狭く、女性専用の

柏崎刈羽原子力発電所はこれまで何度か視察していますが、東京電力は福島事故以降の様々な対策を説明し、理解を得ようと必死という感じでした。免震重要棟、防潮堤、防潮壁、地盤問題などの説明に注目しました。でも敷地内の活断層の有無一つ見ても、従来の主張を繰り返すだけでした。



【ギンラン】ラン科の多年草。漢字で「銀蘭」と書きます。花は白。銀色ではありません。久しぶりに出合いました。杉林の縁にそっと咲いていました。花言葉は「おとなしい貴婦人」だとか。16日、撮影。場所は秘密。

「暴走を続ける安倍政権、今度には内心の自由まで押しつぶそうとし、憲法改悪へと進もうとしている。とんでもないことだ。昨年、新潟県は参院選、知事選で勝利の方程式をつかんだ。次期衆院選では必ず野党共闘を実現し、安倍内閣を葬り去ろう」と訴えました。

上越市では昨年、市民と野党が一緒になって参院選、知

5月23日に市政報告会

日本共産党議員団では5月23日（火）午後6時半から市民プラザにおいて市政報告会を開催します。6月議会で契約案件の上程が予想される国宝の刀剣、「山鳥毛」についての取組と私たちの見解、深刻化する医療機関における医師不足、ガス水道局所管本支管工事における談合問題の現状と今後の取組などをお話します。市民のみなさんの声をぜひお聞かせいただきたいと思ひます。



No.1807 2017.5.21
 発行・編集 日本共産党上越市議 橋爪のりかず
 Tel 025-548-3628
 通じないときは 090-5392-1961
 E-mail hasiznyg@ruby.ocn.ne.jp
 URL <http://www.hose1.jp/>

ブログ
 「ホーセの見
 てある記」は
 ← こちら

橋爪法一 検索

春よ来い

第四五五回

一反の大きさ

これまでじっくりと考えることのなかったことを誰かから詳しく説明してもらって理解を深めると、とてもうれしくなりま

す。先日、大島区で行われた旭新緑祭の「自然散策コース」に参加したときも、何かそういうことがありました。

新緑祭はいつも「山菜採りコース」と「自然散策コース」に分かれるのですが、今回は「山菜採りコース」が人気で、「自然散策コース」を選択したのは地元郵便局長さんなどほんの少数でした。

ガイド役はこれまで務めてこられた植木さんに代わって、昨年、田麦に移住してきた若い牛田さんです。「足の具合がいまひとつ」と従兄（いとこ）から聞いていた植木さんも同行してくださいました。

牛田さんによると、今回、植木さんからデータをもらい、事前に二人で下見もしたそうです。入念な準備をして当日にのぞんだことを知っただけでもありがたかったですね。ただ、自然が相手ですから何が起きるかわかりません。その思いがけないことへの対応をどうするのかも楽しみでした。

ミズバシヨウが咲いている小さな池でサシヨウオとイモリの違いなどの説明を聴いてまもなくのことでした。ブナ林に入る階段を上り始めたその時、一匹のカナチヨロが参加者の目に入りました。

牛田さんはカナチヨロを捕まえると、左手のひらにのせて、説明を始めました。捕まえたカナチヨロは体長一五センチくらい。おそらく体温調節をしようとしてきたのだと思います。牛田さんはニコニコしながら「カナチヨロは日向ぼっこが大好きなんです」と言いました。

私は、牛田さん自身がカナチヨロと友達であるかのような優しい説明を聞きながら、「この人は小さなころからカナチヨロ

と遊んでいるな」と思いました。それほど牛田さんの表情が明るく、うれしそうな語りだったのです。

「自然散策コース」一行（いっこう）はその後、ブナ林の中の道を歩き、一本のブナの木に葉は六〇万枚もあることやハサ木として活用されたであろう痕（あと）などを牛田さんの案内で確認しました。そして昨年、植木さんから氷河期の生き残り植物であるモウセンゴケの説明を聴き、衝撃を受けた農道を歩きました。

農道の下の方には、すでに代かきが終わっていた田んぼが広がっています。田んぼのほとんども見渡せる場所へ移動した時点で、牛田さんが参加者に思いがけない質問をしました。最初に「この大きな田んぼの面積はどれくらいだと思いますか」と訊き、次に「一反の田んぼってどれくらい大きいですか」と訊いてきたのです。これにはびっくりしましたね。

長年にわたり田んぼをやってきた者は、ふだんそんなことは考えません。田んぼの大きさは自分のうちの田んぼでイメージし、判断してきましたからね。一行は、「一反の大きさは幅一〇メートル、長さ一〇〇メートルの面積です」「この集落の現在の耕作面積は三七町歩ほどです」「かつてこの集落には六〇〇人を超える人たちが住んでいました」などといった説明に、なるほどと思ったり、驚いたりしていました。

散策中の説明では、このほか、旧旭小学校の公認グラウンドの整備のことなども出てきました。牛田さんは旭小学校閉校記念誌も読んでいたのです。これから住み続ける地域をよく知っておきたいという気持ちからかも知れませんが、自然散策の案内人として、ここまで準備してくれたとは……。植木さんもうれしそうです。

市議会主催の議会報告会、初めて日曜日に開催

市議会主催の議会報告会・意見交換会が14日から連続して3日間、春日、安塚、板倉、大潟（写真）の各区で行われました。私は春日、安塚、大潟での会に参加してきました。

注目していたのは初の日曜開催と

なった春日謙信交流館での会です。市議会がこれまで議会報告会をしてきたのはすべて平日の夜でした。初めて、日曜日に、しかも日中に行われてどうだったか。この会場での市民の参加者は8人と思ったほど増えませんでした。ただ、議会事務局によると、8人のうち、初めての参加が5人（男性3人、女性2人）だったということです。今後、何回か日曜開催を重ねてほしいですね。

報告会では議長や各常任委員長などの報告の後、質問や意見がいくつも出ました。いつも思っていることですが、この報告会は、議員の定数が減った中で市民の幅広い声を聞く大切な機会の一つになっています。

参加者からは、「防犯灯のLED化の補助は市が直接補助するときは50%補助、地域活動支援事業で補助を受ければ100%。これでは市民の間で不公平感を与える」、「空き家バンクにつ



いての市のホームページは見にくい。これでは対策に不熱心だと思われる」、「空き家対策も大事かもしれないが、一人暮らしなどにたいするより大きな応援を」、「市は国宝の刀、山鳥毛の購入を前提に説明会をしたのではないか。議会も購入が決まっているなかで議論したのではないか」、「合併でどうしても中心部へお金を持って行かれた気がしてならない。地域事業費は合併後見直しされ、最後は事業費枠をとっぱらわれたが、各区がどこまで達成したかを報告してほしい」、「田植えの一番忙しい時期になぜ報告会をやるのか。もっと開催時期を考えてほしい」などの声があがりました。

上越地域各消防署における空間放射線量測定結果

測定は毎日午前9時。数値はマイクロシーベルト。1時間当たりの測定量です。

消防署によると、通常は1時間当たり0.016~0.16μSv(マイクロシーベルト)だとのこと。

	5月10日(水)	5月17日(水)
上越南消防署	0.050	0.040
上越北消防署	0.053	0.050
新井消防署	0.047	0.047
頸北消防署	0.043	0.047
頸南消防署	0.053	0.040
東頸消防署	0.050	0.050
高士分遣所	0.050	0.050
名立分遣所	0.050	0.057